

輸出停滞で減速感

関西景気の回復に減速感が出てきている。新興国経済の減速や金融市場の動揺で輸出や生産が停滞し、好調だった企業業績に陰りが見られる。個人消費も堅調なインバウンド(訪日外国人)需要を除けば、節約志向が広がりがつある。シャープの経営不振なども重なり、先行きの不透明感が強まっている。

設備投資先送り

企業の投資意欲がじわり後退してきた。金属プレス加工を手掛ける渡瀬金属工業所(大阪府寝屋川市)は、家電製品などの部品加工の設備投資を先送りした。昨年末時点

新興国向け電子部品など 個人消費低調も影

では大型部品の加工需要が2016年に出ていると見て、数千万円の投資を考えていたが、年明け後の需要が弱く「今では

点検 関西景気

くついと判断した(渡瀬吉正工場長)。

旋盤加工の中川鉄工

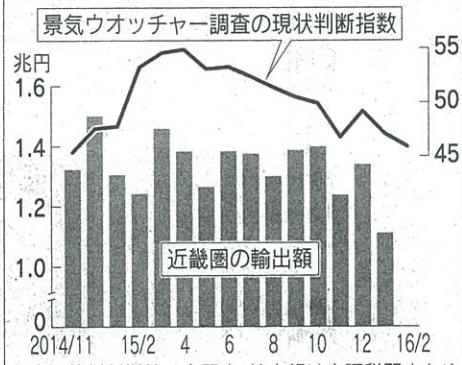


新興国経済の減速で輸出は停滞している(2月、大阪港)

(大阪市)は15年夏まで好調だったプラント向け製品の受注が減っており、設備投資は「新たな仕事が見込めない中で様子見の状態」(中川裕之社長)。フィルム製造のスマイロン(大阪市)は電気機器向けの受注が伸び悩み「16年8月期に予定していた設備投資がずれ

製造本部長)という。背景にあるのは、新興国経済の減速だ。関西の輸出をけん引してきたスマートフォン(スマホ)向け部品なども失速してきている。日東電工は主力の液晶向け偏光板など、オプトロニクス事業の収益が15年10〜12月期から落ち込んだ。最大顧客である米アップルの生産調整や中国のスマホ市場減速が響いた。武内徹取締役は「受注は想定より速いスピードで落ち

関西景気は足踏み感が強まっている



(注)現状判断指数は内閣府、輸出額は大阪税関まとめ

日銀

日銀大阪支表した3月の融経済概況で府4県の景気に回復している判断を維持しきは4カ月連

「そつだ」と話す。日本電産はスマホ向けの拡大が見込め16年3月期の売上900億円と増り180億円増えた。だが、需たほど伸びず、場稼働率は低る。産業用チェ大手の椿本チ資源価格の下中国でセメン、などの採掘現エーの売り